



島根大学広報誌 広報しまだい

# Shimadai

2014.1 vol.19



## 島根は 世界の最先端

【学長スペシャル対談】 映画監督

錦織良成さん

特集 ■ 古代出雲文化フォーラムIIプレイベント  
講演者鼎談  
「たたら」をめぐるロマン



学長  
スペシャル対談

撮影協力/HOTEL 武志山荘

島根県出雲市出身  
映画監督

島根大学 学長

# 錦織良成さん×小林祥泰

NISHIKORI YOSHINARI

KOBAYASHI SHOTAI

錦織良成さん(右) / 1962年生まれ、島根県出雲市出身。島根県立平田高等学校時代から演劇や脚本に興味を持ち、97年、自身の脚本による「BUGS」で映画監督デビュー。地元・島根県を舞台に「白い船(02年)」「うん、何?(08年)」「RAILWAYS、49歳で電車の運転士になった男の物語(10年)」の島根三部作を撮影。また、隠岐諸島を舞台に家族の絆、日本の心を描いた「渾身(13年)」は、モントリオール世界映画祭の正式招待作品となり、日本のローカルをグローバル化するスタートとなった。

## ■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①法文学部 田坂 晶准教授 ..... 9
- ②教育学部 鶴永 陽子准教授 ..... 11
- ③総合理工学部 波場 直之教授 ..... 13

- しまだイトピックス ..... 15
- 第7回ホームカミングデーを開催 ..... 17
- 学生プレス研究会 / 海を越えた島大生 ..... 19
- サークル紹介 ..... 21  
女子バレーボール部 / シュールカメラート管弦楽団
- 島根スサノオマジック紹介・  
島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント ..... 22

# 島根は、世界の最先端

ゲストは、今年三月開催の「古代出雲文化フォーラムⅡ」古代出雲文化と現代の製鉄へつながる「たたら」へのいざない〜」に出演される映画監督・錦織良成さん。  
古代出雲文化のことから現代の島根県が抱える問題まで、郷土愛あふれる対談となりました。

## 島根県だから残る日本の魅力を「映画」という形で世界に発信したい

**学長** 監督の作品には、島根県を舞台にしたものが多数ありますね。なぜ島根で映画を撮り続けていくんですか。

**錦織** 島根県はとにかく歴史と伝統の深さがすごいので、他の

場所で撮影するのは意味合いが違います。私にとって本当に特別な場所なんです。もちろん、純粹にわが故郷を応援したいという意味もあります。ただ、観光客を増やすために映画を撮影

する、という商業的な感覚は正直ないですね。

**学長** まずは映画の内容ありき。名画の舞台を見てみたいということ、結果的に観光客が増えるのであれば、それはそれで素晴らしいことですね。

**錦織** 「故郷はこんなにすごいところなんだ」と思って撮り始めた映画を、今度は「世界に持っていきたい」と思って日本全国を回りました。すると驚くことに、あちこちで「出雲」を感じることが多いんですよ。例えば、東京の神田明神には、出雲ではおなじみの「大国主命（オオクニヌシノミコト）」と「少彦名命（スナヒコナノミコト）」が祭られていました。



2014.1 vol.19  
**Shimadai**

島根大学広報誌  
広報しまだい

■学長スペシャル対談

島根県出雲市出身 映画監督 錦織良成さん ..... 1

■古代出雲文化フォーラムⅡ プレイベント

「たたら」をめぐるロマン ..... 5

## たたらに見る、優れた文化の数々 出雲の古代文化は、まさに「日本の原点」

**錦織** また、博多の祇園山笠に行つた際には、追い山のスタート前に「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに」と、スサノオの詠んだ和歌が披露され、出雲の神である祇園神様(スサノオ)に捧げる神事だとの説明があり、とても驚いたと同時に誇らしい気持ちになりました。

**学長** 出雲は日本のルーツなんだと改めて実感できるエピソード

ですね。ところで、現在準備中の次回作は、古来の製鉄技法である「たたら製鉄」や日本刀などを題材にしているとか。

**錦織** 次回作のタイトルですが、「たたら侍-TATARA-SAMURAI」といいます。映画で描こうとしているのは400年位前の時代設定で、この時代にたたら製法をしていたのは、間違いなく中国地方だけな



「現役」な錦織監督。歴史、文化、自然など、島根の話題はつきません。

んだそうです。つまり、この地域でしかできないことがたくさんあるということ。まさに今、島根大学の諸先生方にお世話になりながら、いろいろ調べているところです。

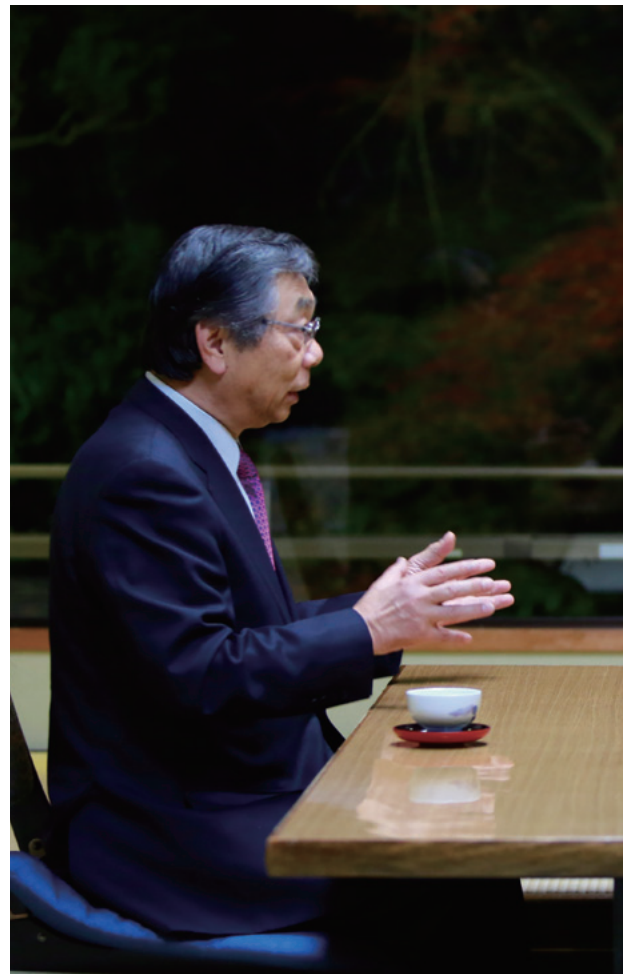
**学長** 出雲では紀元前2000年頃から鉄を使っていたことが分かっていますが、たたらになったのは4〜500年前と言われているんですね。鉄の文化は中央アジアやインドから伝わってきたけど、他の場所では採れない質のいい砂鉄がこの一帯にあったので、日本刀の玉鋼ができたようです。また髭剃り用のカミソリの刃は、実は島根の砂鉄を用いた玉鋼からできているんですよ。

**錦織** たたら製法を続けているのは、単に伝統を守るためかと思つていたのですが、実はたたらがなくなると、日本刀が創れなくなるそうです。つまり、そのくらい上等な鉄は、他では作れない。大学で研究して、性質の違いや数式なども分かっているにもかかわらず、最新鋭の溶鉱炉で作ったところで、同じように再現はできないそうです。たたらはまさに「現役」なんです。

**学長** どんなに機械が進歩しても、結局最後は人間の「勘」。最先端は古代を追い越してはいない、という事実をきちんと知っておかないといけないですね。温故知新とはよく言ったもので、これから新しいものを創る時のヒントがいっぱいあるはずですよ。

**錦織** こういう事実を、島根県民ですら知らないのではないのでしょうか。だから私は「たたら侍」という映画を創ることにしたんです。たたらや出雲古代文化の素晴らしさを、映画を通して世界の人たちに発信したい。そして「一体これは何なんだ!」と思わせることから、現代の出雲も知ってもらいたい。

**学長** これぞまさに「映画から世界に発信」ということですね。**錦織** それにしても、たたら例を見ても、現代に生きる我々の発達はまだまだ足りないのだなと思ひ知らされますね。自分たちは随分進歩した、と思ひ込んでいるけど、古代出雲文化の奥深さと比べたら、実際のところどうなんだろう、と考えさせられてしまいます。



「島根の水のきれいさ、空気きれいさは、日本の中でも群を抜

## 島根から日本、そして世界へ 昔も今も、島根は日本の、そして世界の最先端

**学長** 島根県といえば、高齢化の話題がよく上がりますが、監督はどのようにお考えですか？

**錦織** ここで暮らしている人は、気付いていないかもしれませんが、実は島根は日本の最先端だと思います。なぜなら島根県が抱える高齢化による過疎化や少子化などの問題は、50年後に東京のような大都市でも確実に起こってくる。島根県はそのような問題を日本で一番早く体験しているわけです。

**学長** つまり、高齢化社会にお

ける問題をいかに乗り越えていくか、という最先端モデルが島根県というわけです。

**錦織** 中央から地域に向かって「早く地域活性化を進めるように」という趣旨の発言をよく聞くように思いますが、東京に行くことと出雲の良さがよく分かる。コミュニティにしる、水や空気、食べ物にしる、島根の方が俄然、発達しているように感じます。

**学長** 教育にも同じことが言えるのではないのでしょうか。本学の一番の強みは、古代からの素晴

らしい文化・歴史のある地のど真ん中にあるということ。いくら中央の大学が頑張っても、地元でなくては何感できないことがいっぱいあると思うんです。

**錦織** そういう意味で、真の教育は島根県のような恵まれた環境のあるところじゃないとできないのかもしれない。ここには、人間として学ぶべき大切なことがたくさんあるような気がします。個人的には、島根大学の学生にはほとんど起業して「田舎をきちんとビジネスにする」実験をしてほしいですね。

**学長** 本学ではベンチャー企業の起業を積極的に支援しているんです。国は高い技術を持つ

人材の育成を求めています。本学がめざしているのは、自らイノベーションを起こせる人材の育成です。

**錦織** 「しまね映画塾」を始めて10周年を迎えましたが、「技術にとらわれず思いを込めた作品を撮るように」と伝えると、皆途端に上がりが良くなります。やはり、技術も大切ですが「こうしたい！」という強い思いが大事なんだと思います。将来、島根大学に映像コースができれば、ぜひ学生たちと一緒に、映画を通して日本のこころを世界に発信していきたいですね。

**学長** これからの本学と、これからの島根県が楽しみです。



小林祥泰／1946年生まれ、出雲市出身。慶應義塾大学医学部卒業後、島根医科大学医学部教授、島根大学医学部附属病院長などを経て、2012年4月より島根大学長に就任。専門は神経内科学。

# 古代出雲文化フォーラムII「たたたら」をめぐるロマン

講演者  
鼎談

昨春、東京で初開催し大盛況となった「古代出雲文化フォーラム」。今年は3月9日に、第2回目を広島で開催いたします。今回の中心テーマは「たたたら」で、各分野でご活躍中の第一人者の方々から、多角的なお話をいただく予定です。そこで、フォーラム本番に先立ち、当日講演等をしていただく3名の方々に、プレイベントとして「たたたら」と古代出雲文化の関わり等についてトークセッションを展開していただきました。

(平成25年9月10日実施)

## 出雲文化の息吹を感じて

大庭 『古事記』編纂千三百年、出雲大社の遷宮と、このところ注目を集める出雲文化ですが、忘れてはならないのが「たたたら」です。その「たたたら」製造の責任者である木原さんと、「刀匠」である三上さんは、どうして今の道に入られたのでしょうか？

木原 工業高校卒業後、当時の日立製作所安来工場に入社。冶金研究所で砂鉄精錬に従事し、その後同社鳥上分工場に転属。「たたたら」を近代化した角型溶鉱炉による木炭銑鉄の製造と原料砂鉄の採取に従事していました。昭和52年に、(公財)日本美術刀剣保存協会(日刀保)が、途

絶えていた「たたたら吹き製鉄」を伝統技術の保存伝承と「玉鋼」製造を目的として復活することに  
なり、技術習熟のため専任を願  
い出て安部村下に師事して以降、  
「たたたら」一筋に精進しています。  
三上 私の場合は、学生時代に  
『日本刀に生きる』という本に出  
会ったのが始まりです。父親が、  
包丁や鎌などを作る、いわゆる  
野鍛冶だったのですが、同じ鍛冶  
でも工芸品・美術品としての世  
界があることを知って大きな衝  
撃を受けました。そんな憧れか  
ら、先ほどの本の著者の工房に  
入門させていただきました。

大庭 私は金属の結晶学が専門

で、十数年前に島根大学に  
赴任。これを機に、島根ら  
しい研究をしたいと思い「た  
たら」と関わり始めました。  
鉄は銅と並んで、人類が実  
用化した金属の中で最も古  
いものの一つですが、奥が深  
く、材料科学の研究対象と  
してはまだまだ面白い素材  
だと思えます。

木原 中国地方は日本有数  
の山砂鉄の産地で、その豊  
富な資源と、古代の文化先  
進地・出雲の人たちの高度  
な知識の出会いが、製鉄の  
技術「たたたら」を進化させて  
いったのかもしれない。

国選定保存技術保持者

玉鋼製造(たたたら吹き)

村下職

## 木原明氏



山口県出身。日立  
金属(株)安来工場  
たたたら顧問。(公  
財)日本美術刀剣  
保存協会・日刀保  
たたたら村下職。日  
本古来の製鉄技術  
「たたたら吹き」で  
「玉鋼」を製造する  
技能を有し、昭和  
61年、国選定保存技術保持者に認定。平成18  
年、叙勲「旭日双光章」を受章。

刀匠／全日本刀匠会会長

## 三上貞直氏



島根県出身。人間国宝・月山貞一刀匠に師事  
し、昭和55年、美術刀剣類制作を承認。同年、  
三上貞直日本刀鍛錬道場(広島県山形郡北広  
島町)を開設。平成7年、刀匠の最高位・無鑑  
査に認定。平成18年、広島県無形文化財保持  
者に認定。日刀保たたたら村下代行も務める。



ヤマタノオロチ神話でスサノオの妻となるイナダヒメを奉る稲田神社の境内にある鼎談会場にて、和やかな中に示唆に富むお話が展開されました。左から大庭卓也氏、三上貞直氏、木原明氏。  
 〈撮影協力／姫のそば ゆかり庵(島根県仁多郡奥出雲町)〉

**大庭** 有名なヤマタノオロチ神話で、オロチの尾から三種の神器の一つである天叢雲劍あまのむらぐものつるぎが出てきたとされていますが、『古事記』や『日本書紀』が編纂される以前から、出雲地方で製鉄集団・刀工集団が活躍していたという証なのではないでしょうか。

**木原** 島根県奥出雲町にある船通山を源流とする斐伊川は、「鉄穴流かねなし」という方法による砂鉄採取や野たたらのの風景がオロチ神話の元になったとの説もあります。「鉄穴流し」で膨大な山を崩した採掘跡は、その後、棚田として活用されていますが、「たたら」製鉄で育まれたこの景観は、大切に後世に残したいものです。  
(註：文化審議会は昨年11月、「奥出雲たたら製鉄および棚田の文化的景観」を国の重要な文化的景観に選定するよう、文部科学相に答申しました。)

**大庭** その棚田では、有名な仁多米が栽培されていますね。

**木原** 奥出雲仁多米はブランド米として全国に販売され高評価を得ています。その美味しさは、砂鉄を含む花崗岩かこうがんから溶け出したミネラルの多い水や、「鉄穴流し」による土壌特性が影響すると科学的にも証明されています。

**三上** また「たたら」は刃物製造や堅木加工の技も育みました。

**木原** 「雲州そろばん」がその代表ですね。出雲文化の息吹はこんなところにも見て取れますし、「たたら」との関わりを含め誇りにしてほしいですね。

## ものづくりは、人づくり

**大庭** ところで、日本刀は結晶学的に言えば、芯の部分はフェライト、刃の部分はマルテンサイトというものになります。熱する、冷やす、叩くといったプロセスの中で、金属の結晶構造、つまり原子の配列が変わることにより、性質が変化することを巧みに利用して作られています。

**三上** 数々の偶然の産物の積み重ねでしょうが、先人たちが知らず知らずのうちに科学的な性質を活用していたのは驚きですね。その日本刀ですが、今はお客様からのオーダーで作ることも多く、お客様と刀匠の合作とも言えますし、また流派による作風の違いで、「綾杉肌」とか「板目肌」といった地金に現れる文様なども異なっていますので、それぞれの刀匠の個性が現れ、人間味があつて面白いと思います。

**大庭** 「たたら」の方も、製造過程の詳細を科学的にとらえようと、炉に様々なセンサーを組み

島根大学大学院 総合理工学研究科  
 教授／たたらプロジェクトリーダー

## 大庭卓也氏



福岡県出身。広島大学大学院理学研究科博士後期課程を修了、理学博士。筑波大学、帝京大学を経て、平成12年島根大学に赴任、平成15年より教授。平成22年島根大学産学連携センター長兼任。専門分野は金属材料性、回折結晶学。主要研究テーマは、マルテンサイト変態の結晶学的研究。

込むなどして分析を行ったことがあるそうですが？

**木原** そうですね。「たたら吹き」による「玉鋼」生成のメカニズムは、炉内で砂鉄・木炭・釜土が融合し複雑な製鋼反応が生じます。ただ数多くのセンサーでモニターしても生成メカニズムの微妙な点は解析できませんでした。その複雑なプロセスの中で生み出される「玉鋼」はある意味、神秘的なものと言えます。

**大庭** 「たたら」製造の技のマニユアル化は、結局のところ実現できなかったということですね。

**木原** 現代科学で解明されない「たたら」の技術技能は、経験に



木原 明氏



「たたら」の炉頂内の炎の状況を観察する木原明氏。たたら製鉄の全責任者である「村下」職は、細かな状況変化も見逃せない。(写真提供/木原明氏)



大庭 卓也氏

よる匠の技と勘の作業です。「たたら」の責任者である「村下」の使命は、原材料である砂鉄・木炭・釜土等の原料の吟味、その原料を製錬する炉を作り、操業に入ると三昼夜の操業を続けます。この過程での炉内反応は炉から発する火、炎等多くの現象に昇華されます。その状況を読み取り判断し、シンプルな道具で操作し制御することが必要となります。この複雑な工程を経験し、「村下」の技術技能を習熟する体力と精神力がなければ、優れた「玉鋼」の製造は不可能です。

**三上** 非常にハードな作業を経て出来上がった「玉鋼」を使わせていただき、日本刀を作り上げ

るのが私たち刀鍛冶です。刀匠の資格を有する刀工の下で5年以上の修行を行い、さらに文化庁の研修会を経て初めて刀匠と認められます。かといってすぐに自分の工房を持つとは限らないので現実には厳しいのですが、技術を伝承していくためにも、人材育成は重要と考えています。

**木原** 「ものづくりは、人づくり」とも言えますね。どの世界でも同じだとは思いますが、力をつけるためには、自分の仕事を好きになり、技術技能をよく見て経験し、自ら学びとる意欲が大切です。現在その方針で「日刀保たたら」では11人の「村下」後継者を養成しています。

**大庭** 学問の世界も同様で、小さなことでも自分で咀嚼し、納得しながら進まなければダメ。自分の力で考えれば、面白味が出てくるし、力も伸びます。

**三上** 人を育てることで危惧するのは、安全指向が過剰気味なこと。例えばナイフは危険だからと、竹を削つての竹トンボ作りもさせない。でも、下手をすれば「痛い」ことを知らないで、本当に「危ない」こととの境界がわから

らないと思うんです。

**木原** 事なかれ主義では、新しいものは生まれません。怪我をしない配慮は必要ですが、多少のリスクを含む疑似体験も、成長の重要なプロセスだと思います。

**大庭** 島根大学では「たたら実習」を行う授業を設けていますが、体を動かすのは面白いと、学生たちにも強く印象を残すようです。頭で考えるばかりでなく、体で覚えるのも大切ですよね。

## 日本を見直し、日本文化を誇りに

**三上** いわゆる日本刀と呼ばれる、反りを持つ片刃の刀剣は、平安時代に出現しました。以降、

南北朝時代には日本人の身長が伸び、野外での騎馬戦に対応したためか、2尺8寸前後の太





三上 貞直氏

人気アニメ『エヴァンゲリオン』に登場する「ロンギヌスの槍」を製作。長さ約33mもの大作は、半年がかりで完成。作者の三上さんは、「より多くの人が、日本のことを見直すきっかけになれば」と語る。(写真提供／三上貞直氏)



刀が使われ、戦国時代には、逆に素早い動きのできる2尺前後の打ち刀が流行。戦いの無くなった江戸時代には2尺3寸前後と、日本刀も時代の空気を映しながら変わっていったようです。

**木原** 「たたら」で製造した「玉鋼」は日本刀に使われますが、それ以外にも「玉鋼(和銑)」で製作した茶の湯釜は、堅牢で湯鳴りも良く、沸かしたお湯は鉄分が適度に溶け味わい深いお茶になります。また、国宝である東大寺南大門の仁王像が、平成元年から全面解体修理されましたが、その際に使われた釘・銚かすがいは鎌倉時代のもと同様にするため「玉鋼」を使用し、三上さんのお父さ

んの手により鍛造されました。

**大庭** 「たたら」は、日本の文化を陰ながら支えているわけですね。ものづくりは、時代の要請や技術の進歩とともに変化しますが、明治以降、日本は西洋に追いつき追い越せでやってきた。そうした西洋化一辺倒の中で、日本古来の技術を数多く捨ててきました。したが、今、改めて日本のこと、日本の文化を見直す必要があるのかもしれない。

**木原** 製鉄の技術は、元来は朝鮮半島を経て渡来しました。が、日本では

砂鉄資源が豊富なうえ、気候が湿潤で森林の回復力に富み木炭供給の面でも優れていたことと、さらに日本人の勤勉性から、日本独自の「たたら」の技術を生み出し、進歩発達発展させ連続と継承することができた技術です。(公財)日本美術刀剣保存協会が、「たたら」を復活させた意義は国家的な価値があると評価されています。

外国の方が日本刀に魅了されて、刀匠に弟子入りもされています。単に技術だけでなく、日本人の精神性や文化なども理解してもらえ、とうれしいですね。

**大庭** 技術革新が著しくIT化、グローバル化が急激に進む現代こそ、「温故知新」の精神、私たちのオリジン(原点)を知ることが大切になってきている気がします。本日はお忙しい中、ありがとうございます。ありがとうございました。

**三上** そうですね。科学的に細部まで解明され、詳細な製造マニュアルができるものなら別でしょうが、「技術」というものは形がないので、一度なくなってしまうと復元しにくい。ですから、技術を継承していくことこそ文化だと思えます。島根では石見銀山が世界遺産となりましたが、この「たたら」の技術も、世界に誇れるものでしょう。最近では、

**木原・三上** こちらこそ、ありがとうございます。ありがとうございました。

3名の方々の専門分野についての詳細談話は、フォーラム当日にご期待ください。



静謐(せいひつ)な美しさを宿す三上貞直氏作の短刀。魂をこめた技が織り成す美しい刃紋や地肌の細かな文様は、作者の流派で異なるという。(写真提供／三上貞直氏)



# 複雑化する 現代の医療倫理に 刑事法的な観点から挑む

医者と患者の関係は、大きく様変わりしています。刑法における治療行為の正当化の必要性や、今後考えられる新しい医療問題について伺いました。

法文学部 法経学科 准教授

たさか あき  
田坂 晶



裁判員裁判制度がスタートした年に、松江地方裁判所でも県内1件目の裁判員裁判が行われ、山陰中央新報に傍聴記を執筆させていただく機会に恵まれました。読んだ方からいろいろなお意見をいただき、とても貴重な体験となりました。

先進国であるドイツやアメリカ、イギリスなど  
究の一つ。

## 医療行為のどこまで刑法を適用すべきか その判断基準を考える

「私たちが健康な日常生活を営むうえで、医療行為は欠かせないもの。社会福祉・医療保障の向上により、医療はますます身近なものになった。しかし同時に、医療技術は有用である反面、時として人の生理的機能を傷つける可能性があるという現実が認識されるようになったのも事実。」

田坂准教授の研究テーマは、治療行為のどこまでが不処罰にあたるのかという基準を明らかにする「刑法における治療行為の正当化」だ。「最近の傾向として、医療が専門化・高度化しているうえ、チーム医療で治療行為が分断されるなど、過去には存在しなかつた新たな問題が起きています。さらには医師と患者の間にかつてのような個人的・家族的な信頼関係が築けなくなっているため、医療過誤訴訟が増加の傾向

にあります。そのため、刑法が担うべき役割も様々な場面に拡大しつつあります」(田坂)。

田坂准教授が刑法における治療行為の正当化の基準を決める際に参考にしているのが、医療と刑事法とを結びつけた議論が展開されてきた諸外国のケース。治療行為と傷害罪との関係に焦点をあて、活発な議論が展開されているドイツをはじめ、患者自身の主体性を尊重する「インフォワード」(参照)の発祥地であるアメリカ合衆国やイギリスの事例から示唆を得つつ、「これを日本に当てはめたらどうなるか」を独自に調査する。

「他大学の先生の論文を読んだり、先輩方に質問をしたりもしますが、基本的には地道で緻密な作業の積み上げです」(田坂)。

## 医療技術の発達を見据え 時代の流れを汲み取った刑事法の研究を

医療技術のめざましい進化は、同時にかつては考えられなかったようなミスや新たな後遺症を生み出している。田坂准教授が考

える今後の課題として①美容整形手術や性転換手術、人体実験・臨床試験などの治療目的を持たない医療行為②母親の意思



島根県初の裁判員裁判として  
話題性の高い裁判を3日間傍聴し執筆。  
注目を集めました。  
(写真は2009年10月30日山陰中央新報)

全国の医療事故の届出件数(警視庁統計)

2001年	105
2002年	185
2003年	250
2004年	255
2005年	214
2006年	190
2007年	246
2008年	226
2009年	152
2010年	141

出展「警視庁統計」

2000年を境に急増  
(2000年以前は40件以下)



研究室にて。医療に関する刑法の  
の文献を読み解くことも大事な研



注目キーワード

医師や医療従事者から十分な説明を聞いたうえで、患者が納得・同意して自分の治療法を選択する「インフォームド・コンセント」。現在、医療従事者はあらゆる医療行為においてインフォームド・コンセントを得る責任があるという概念がほぼ普及しているが、未成年患者や認知症などのために判断能力を欠く患者などに対しては、家族や後見人等による同意にて診療行為を行わざるを得ない場合がある。

また、がん(特に終末期)の場合は病名を告知して欲しくないと考える人は今でも多く、家族の意向によって患者に真実が告知されず、患者が納得しているとは言い難い状況のまま医療を受けるなどの問題も生じており、課題も残っている。

さまざまな倫理的配慮が求められる  
「インフォームド・コンセント」

同じく、医療刑法を研究する  
先生方との共同執筆。

影響を与えうる「受精卵」や「初期胚」の保護に関する問題⑥人の終期の判定に影響を与える脳死に関連する問題⑦医療技術としての正当性が問題となりうる

臓器移植手術⑧終末期医療として特別の配慮が必要となる安楽死・尊厳死、など。その範囲は実に多岐に亘る。

「特に高齢化が進んでいる島根県では、安楽死や尊厳死、さらには延命行為などへの対応が重要な課題となりそうです。また、医療技術の発達により解決策が見つかると同時に、新たな課題も次々と浮上してきます。今後、もライフワークとして、刑事法的な観点から研究を進めていきたいと考えています。」(田坂)。

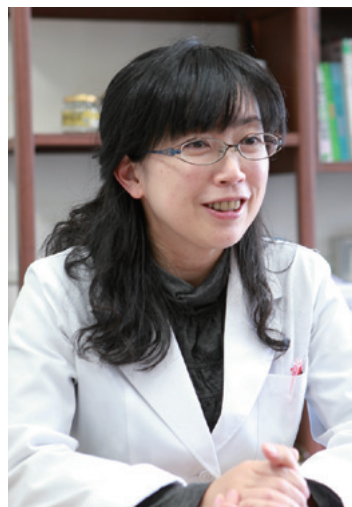
# 使われていない資源を見だし 島根の産業として活用できる 技術を開発

未利用のまま廃棄される食物資源の活用方法の研究を続ける鶴永陽子准教授。実際に商品化された実績もある、その研究内容について伺いました。

教育学部 学校教育課程  
人間生活環境教育講座 准教授

つるなが ようこ  
鶴永 陽子

私は生まれも育ちも島根県。そして前職は島根県職員です。研究領域は「食物学」ですが、単に学会の発表などにとどまらず、島根県の産業に具体的に役立つ技術を開発したい、という思いを持ちながら日々研究を続けています。



実験を指導する鶴永准教授(左)。「実験データの活用方法などは、学生からの意見を大切にします」(鶴永)。

## 成功した柿の葉の事例 商品化され、売れ行きも好調

鶴永准教授の研究分野は、未利用のまま捨てられてしまう食物資源の活用。栄養素が豊富など、優れた機能を持ちながらも残念ながら活用されていない素材を見だし、その活用方法を研究する。具体的には、これまで活用されてこなかった理由である、味が落ちる、保存性に劣る、加工の際に栄養素が失われる、などの理由を解決しながら最適な加工方法を探っていく。しかも実際に生産現場で使える技術にしていくことも重要だ。

最初の成功例は、島根県農業技術センターの研究員時代に素材として紹介された、西条柿の葉から作ったお茶で、島根県内の企業によって製品化された。柿の葉にはビタミンCが豊富に

含まれ、昔からお茶として飲まれてきた歴史があるが、製造工程を経ることで、そのビタミンCが大きく損なわれるのが欠点であった。

鶴永准教授は、お茶を製造する際に用いられる「蒸す」「乾燥させる」「焙煎する」のそれぞれの工程や組み合わせの条件を数多く設定し、素材が持つ栄養素の含量を維持できる製造方法を調査。そして多数のパターン調査の結果生まれたお茶は、ビタミンCの残存量を高く保ちながら上質な味や香りを実現し、実際の販売も好調な商品となった。「とても人気があつて、原料の葉が足りなくなつたほどです。今では葉を目的にした栽培も島根県内で行われています」(鶴永)。

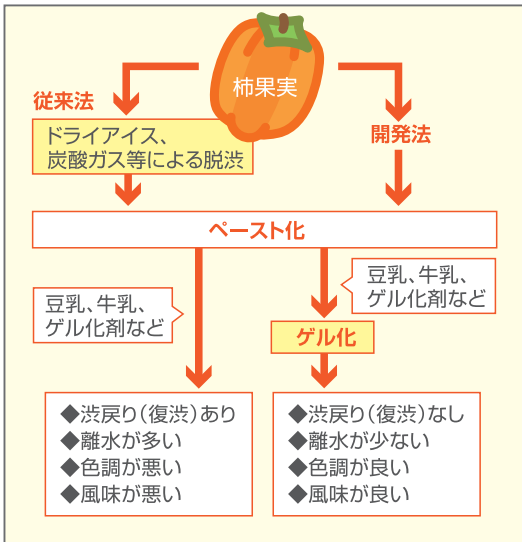
## 技術を現場に生かすために 産学官の協力が不可欠

鶴永准教授は現在、西条柿の果実そのものの新しい利用法に取り組んでいる。栽培や収穫段階で出てしまう廃棄柿を有効に活用しようという試みで、既にゼリーへの加工は実用段階にあり、特許を取得。また麺類への加工に

関しても特許を出願した。さらには柿渋の食品の改良剤としての用途に対しても様々な構想を持つている。いずれも島根県の特産物が地場の産業資源として生かされることを願つての研究だ。その鶴永准教授の研究で重要



西条柿の下処理の様子。「食品を扱うので、衛生管理には常に気を配っています」(鶴永)。



西条柿の葉から作ったお茶の葉。ほんのり甘く、酸味や渋みのバランスも良い。



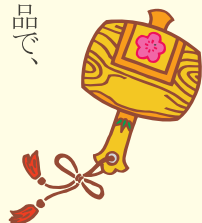
実験中のサンプル。右の二つは同じリンゴから作ったジャムだが、製法によって色や味、食感も大きく変わる。

ゼリー製造を目的として開発した柿の脱渋法の従来法との比較。多くの利点が生まれた。

注目キーワード

島根県の特産品、西条柿

西条柿は島根県が作付面積日本一を誇る特産品で、出雲大社に祭られているオオクニヌシノミコト(大黒様)が手にしている「打出の小槌」に形が似ていることから「こづち柿」とも呼ばれる。渋柿であり、食用にするためには脱渋(渋抜き)が必要。脱渋した柿は日持ちがせず、産地である中四国地方以外ではあまり一般的ではないが、強い甘みと独特の食感で人気がある。普通に脱渋した柿は、加工の際の加熱で渋が戻る性質があり、これまでは菓子の原料などには用いられなかった。鶴永准教授は、これまでペースト化した果実にタンパク質を加えることで、渋が戻る事なく脱渋できる方法を発見した。



なのが、学外との協力体制。実際に研究の成果を産業として生かすためには、生産農家や加工品の製造業者との連携が不可欠で、さらに間に入って調整をしてくれる自治体のサポートも大きなカギとなる。鶴永准教授は、島根県職員という前職からの人脈も生かしながら研究にあたる。「学外との繋がりはとても重要。一人では決してできない研究ですから」(鶴永)、と周囲に対する感謝は常に忘れない。一方、学生に対しては、データから導き出される思考力の深さを期待し、実際に体感してもらうために様々な調理加工の実習も課す。

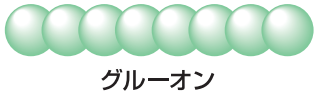
「私は細かいことまで注意するので、ゼミの学生は大変だと思えます」(鶴永)。学生が将来教育現場に出た時に、経験で培われた視点の多彩さが役に立つと信じているからだ。

今後の目標は「教育学部ですから、産業化だけではなく、調理法によって変わる食品の成分変化という視点を教育現場に向けて新しい取り組みにも挑戦したい」(鶴永)。これまで実施した研究の中には、家庭科用教材や食育など、教育分野への展開が期待できるものも多く含まれる。多彩な視点を持つ事の意義がここでも生かされている。

## 素粒子

### 力を伝える粒子

#### 強い相互作用



グルーオン

#### 弱い相互作用



W<sup>±</sup>, Z

#### 電磁相互作用



光子

本当に素粒子？  
何種類ある？

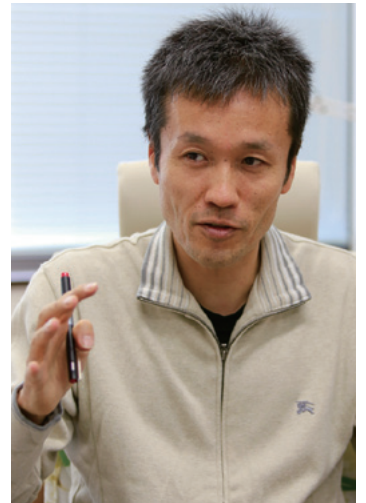
質量を与える粒子がヒッグス粒子。

# 素粒子論の研究を通じ “物理の美しさ”を 多くの人に伝えたい

世界でもトップクラスの素粒子論の研究者であり、自らをして「ノーベル賞に近いところに来ている」と言わしめる波場直之教授。一般に馴染みの少ない分野であるその研究内容について伺いました。

総合理工学研究科  
物理・材料科学領域 教授

はば なおゆき  
波場 直之



ニュースで「ヒッグス粒子」の話題が出て、普通の人は興味を持たないと思います。これからはより多くの一般講演などを通じて物理の魅力を伝え、島根県の文化に貢献したいですね。

## 物理は美しい その本質をより多くの人に

素粒子論の研究は、一般人にはあまりなじみがない分野だが、実は世界的に見て日本は一目置かれた存在。1949年の湯川秀樹をはじめノーベル賞の受賞者も多く、物理を志す者のほとんどが一度は素粒子に憧れると言われる。波場直之教授もその一人。予備校時代の講師の影響で物理に憧れを持ち、さらに大学時代に出会ったフラインマンの著書が研究者への道を決定的にした。

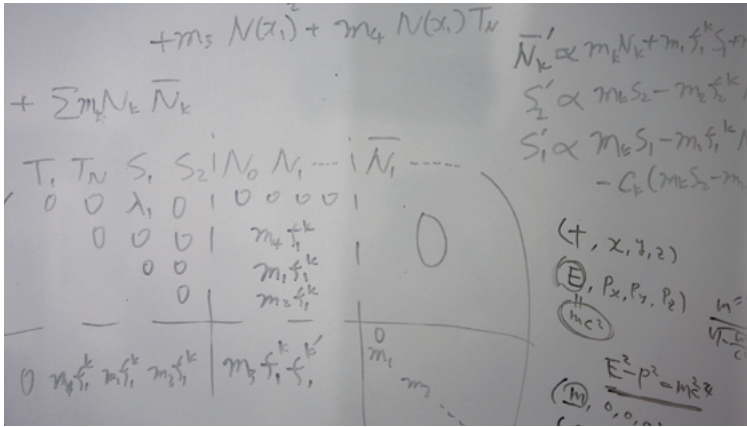
「物理を研究していると、本当

## 素粒子とは そしてノーベル賞をめざして

そもそも素粒子とは、「物をどんどん細かくしていったら最終的には何になるか？」という疑問の最終回答で、これ以上分解できないものの究極の姿を言う。今現在、物質の元になる素粒子としては12種類が分かっており、近年話題になったニュートリノもその一つ。そしてそれらの素粒子に質量を与える粒子がヒッグス粒子とされる。質量を持たない粒子は必ず光の速度で飛んでいく

に美しい経験ができるんです」(波場)。1000のアイデアを思いついて、実際にそれが論文にできるほどの発見である可能性は1ぐらい。しかしその発見をした瞬間というのは何事にも代えられない喜びを感じるそう。その喜びをより多くの人に味わってもらいたいため、一般学生向けの授業では「本質の美しさ」を伝えることに重点を置き、加えて一般講演などで分かりやすく物理の面白さを広める活動にも積極的に関わっていきたくと考えている。

ため、原子が構成できない。原子がないとあらゆる物質、すなわち人間も地球も宇宙も作られない。ヒッグス粒子が「神の粒子」と表現されるゆえんだ。長年、このヒッグス粒子は理論上で提唱されてきたが、その存在が実験によりほぼ証明されたのは2013年になってからのこと。素粒子論に関わる実験が、いかに大がかりな機器を必要とし、困難なものであるかを表している。



「理論研究は紙と鉛筆があればいい」(波場)。研究室のホワイトボードには数式が並び。



サイエンスカフェでの一般参加者を前にした講義風景。

## 現在、分かっている

物質粒子			
	第1世代	第2世代	第3世代
クォーク	アップ	チャーム	トップ
	ダウン	ストレンジ	ボトム
レプトン	電子	ミューオン	タウ
	電子ニュートリノ	ミューニュートリノ	タウニュートリノ
	質量を与える粒子		
			ヒッグス粒子

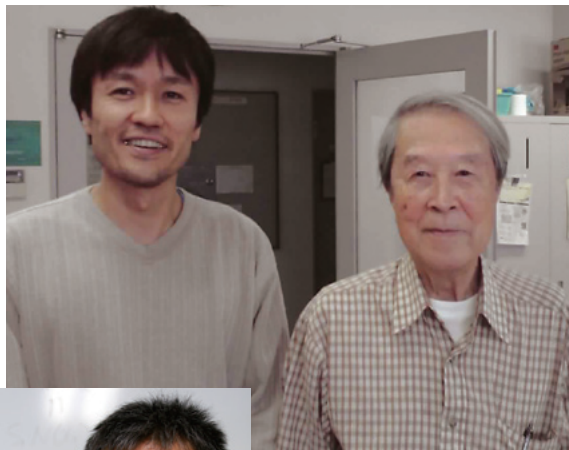
現在分かっている素粒子。物質の元になる粒子、力を伝える粒子、そして

### 注目キーワード

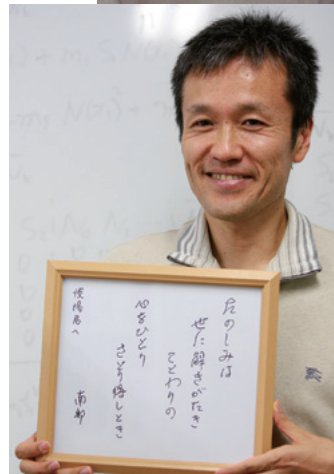
LHCとはLarge Hadron Colliderの略で、日本語にすると「大型ハドロン衝突型加速器」。日本もオプザーバーとして参加する欧州原子核研究機構の地下にあり、大阪環状線よりも長い全周27キロのトンネル内に加速器が巡らされている。この加速器で陽子(ハドロン)をぐるぐると周回させて加速し、陽子同士を正面衝突(コライダー)させた瞬間の様子を検出器で観察する。

### ヒッグス粒子が発見された実験施設、LHC

恩師である南部陽一郎博士と。南部博士は2008年にノーベル物理学賞を受賞している。



さらに素粒子論が難しいのは、日々世界中で理論がアップデートトされ、継続的に勉強を続けて



南部博士から送られた色紙は波場教授の宝物。

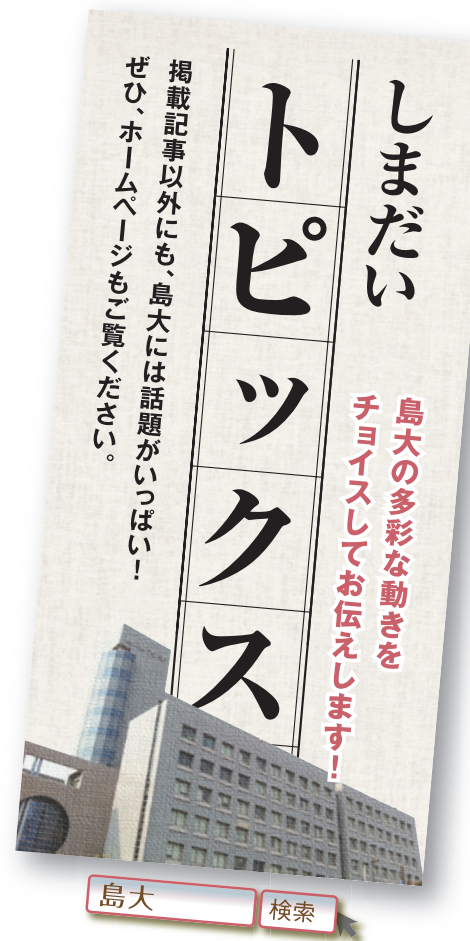
いなければすぐに置いていかれてしまうスピード感だ。逆に「非常にフラットな学問で、若い研究者でも努力次第でチャンスはいくらでもある」(波場)。現在、そういった意欲を持つ研究者が波場教授の研究室に入りたいと世界中から応募してくる。そして教授自身も、ノーベル賞をめざして日々の研究を重ねている。



「ポリレンジャー」第8回マニフェスト大賞で最優秀賞を受賞

11月1日、本学の学生団体「ポリレンジャー」若者の手で政治をよくし隊！〜（顧問：法文学部法経学科毎熊浩一准教授）が、第8回マニフェスト大賞における市民部門で最優秀賞を獲得しました。

今回のポリレンジャーの取り組みは、松江市長のマニフェストを検証。SNS等を活用した施策についての検証・バックデータの収集・市長との公開討論会の開催（ネット中継あり）等を通じて、市民と行政とが地域課題を共有するという、学生の行動力を活かした取り組みが評価された結果でした。



全国的にも注目されるプロジェクト

音楽教育連携推進室の開室式を挙

12月6日、教育学部合唱合奏室において「島根大学教育学部音楽教育連携推進室」の開室式を挙

地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ「松江市音楽文化創出・振興事業」ひとにやさしいまちづくりを目指して」を円滑に行うため、設置するものです。

音楽教育連携推進室は、同部の音楽教育専攻が中心となり本年度から実施する事業「文部科学省特別経費事業」山陰の音楽文化資源活用による資質の高い教員養成プログラム開発―少子化への対応と地域のソーシャル・キャピタルにつなぐ―』及び「文化庁



障がい者の会話理解を支援

モバイルアプリ「STARK2」が福祉機器コンテスト2013で最優秀賞

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会が主催する「福祉機器コンテスト2013」機器開発部門において、総合理工学研究所廣富研究室（応募者：総合



ランチミーティングの記事が良かった。外国の方の話が聞けるのは面白い。  
(鳥取県米子市・Kさん)

農業分野にも関心を持っていただきたい。島根県民と大学との関わりについて多くの情報を発信して欲しい。  
(島根県飯石郡・Tさん)

活躍されている卒業生の方はもちろんですが、地道にまっすぐ進んでいらっしゃる方の記事もあつたらいいと思います。  
(島根県隠岐郡・Sさん)





## 自主活動として 学生計26名が被災地へ

**東日本大震災「島根県災害ボランティア隊」に参加**

本学を含む島根県内の大学生が8月20日～9月3日にかけて、東日本大震災「島根県災害ボランティア隊」として、NPO法人「いわてGINGAINET」が主催するボランティア活動に参加しました。

参加した学生からは「今回の経験を活かして大学生活をより充実したものにしていきたい」との意気込みも多く聞かれました。

理工学部2012年度卒稲村駿が開発した障がい者の会話理解を支援するモバイルアプリ

「STalk2(エストークツ)」が、応募件数21件の中から最優秀賞に選ばれました。

## 日本の文化と風俗の理解を促進

**島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開館式を開催**

10月21日、寧夏大学(銀川市)において島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の開館式が行われました。この研究所図書館は、日本の文化と風俗を

寧夏の人々に知ってもらうため、日本語の書籍・雑誌等を閲覧できる場所として開設されました。

開館式では、小林学長から何建國寧夏大学校長へ寄贈図書

の目録が手渡され、図書館に掲示する看板の除幕式が行われました。



## 島根大学 「市民パスポート会員」 へのお誘い



島根大学では、平成26年度から、「地(知)の大学」として、さらに充実した生涯学習を提供するために「市民パスポート会員」制度を新設します。加入には、年齢・学歴などの条件はありませんが、年会費(5,000円)が必要となります。

会員にご加入いただくと、本学が実施する公開講座・公開授業などを無料で受講できる上に、広報誌『広報しまだい』や定期的な生涯学習メールを受け取ることができ、本学のさまざまな活動に参加することができます。

- 会員特典**
- 公開講座・公開授業や大学開放事業の情報提供と受講
  - eラーニングなどのインターネットを用いた講義の聴講
  - 広報誌『広報しまだい』の送付
  - 附属図書館・学生市民交流ハウス(仮称)【松江キャンパス】・大学施設の利用
  - 各種催事(国際交流・学生との交流など)への参加

興味のある方は、是非ご加入いただき、生涯学習の現役として「知る」を楽しんでください。

なお、「市民パスポート会員」の加入申し込みは、1月下旬を予定しています。

**お問い合わせ先**  
市民パスポート会員担当  
島根大学総務部総務課(総合理工学部2号館3階)  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
TEL:0852-32-6603  
E-mail:webinfo@office.shimane-u.ac.jp

### 読者の声

「広報しまだい」前号(vol.18)に寄せられた声をお届けします。

普段まったく触れることのない分野について分かりやすく書いてあり、読みやすいと思います。  
(島根県出雲市・Oさん)

おおきくなったら、かんどしになりたいので、大学でどんなことをしているかおしえてほしいです。  
(島根県出雲市・Tさん)

## 第7回ホームカミングデーを開催

# 卒業生と学生の交流を育む一日に

島根大学と島根大学同窓会連合会では、卒業生の皆さまに現在の大学の様子や活動を知っていただくとともに、卒業生と在学生の交流の機会として毎年松江・出雲の両キャンパスで「ホームカミングデー」を開催しています。10月12日(土)に松江キャンパスにて開催された、第7回ホームカミングデーの様子をご報告します。



本学ホールにお集りいただいた約80名の同窓生と一般の方々に、まずは小林学長が挨拶。「最近では内向きな学生が多いと言われる中、本学には多数の外向きな学生がいる。同窓生の皆さま方には、学生たちの活動を知っていただくのほもちろん、就職など色々な面で相談のついでにいただければ」と呼びかけました。

それを受け、江口同窓会連合会長が「これを機に、ますます親睦と交流を深め、学生たちの支

援をしていきたい」と語りました。続いて、学生による活動報告会が行われました。ここでは、各学

部の学生グループが取り組んでいる日頃の教育・研究等の活動についてご紹介します。

### 法文学部

#### しまねツシヨナル〜島根を支える大人達〜

報告者／法文学部卒 上田 順亮さん

県外出身の島大生が就職を機に出身県に戻ってしまうのを見て「いろんな企業や大人にとにかく話を聞いてみよう」と、自主的に動き始めたのがきっかけになり、島根で活躍する大人達を学生目線で紹介するネット番組「しまねツシヨナル〜島根を支える大人達〜」を制作しました。さらには学生たちの「こんなことをやってみたい!」という思いを企業に伝えるための「島根

発! 学生起業家プロジェクト」も始動。第1回目の発表会には、経営者や学生など約150名が参加し、大盛況となりました。



教育学部

諸機関との連携による  
音楽アウトリーチ活動

報告者／教育学研究科

芸術系教育コース

(音楽教育分野)1年

森本 菜奈視さん

教育学部では、(公財)しまね文化振興財団や松江市教育委員会と連携、一般市民に向けた出前授業や訪問演奏などの「アウトリーチ活動(芸術を普及する活動)」をしています。

音楽大学ではなく「教育学部の」学部生・大学院生が行う活動である、というのが大きなポイント。子どもから大人まで幅広い年齢層や発達段階に合わせたプログラムを自分たちで企画し、実施できるのが強みです。

また公民館やイベントでのゲスト演奏など、教育学部がミッションとしている「地域連携」にも積極的に取り組んでいます。



総合理工学部

ARによる現実世界と  
仮想世界の融合

報告者／理工特別コース

数理・情報システム学科3年

田中 祐貴さん

AR技術とは、現実世界と仮想世界を融合させることのできる技術のこと。この「AR」を使つた2つの研究をしています。

その一つが「ARにおける物理的物体と仮想的物体の接触に関する研究」。AR Toolkitを用いることでマーカー型のARアプリケーションを作成することができ、さらに現実世界の物体を認識し、仮想世界の物体に接触させることができました。

同時に、奥行きが認識できないなどの問題点も見つかったため、今後引き続き研究に取り組む予定です。



生物資源科学部

学生山王寺棚田保全隊

報告者／生物科学科3年

坊 将一さん

雲南市大東町に位置する山王寺は、37世帯・70名が暮らし、うち7割が高齢者という町です。

今回、山王寺棚田保全隊が取り組んだ「イイトコ発見プロジェクト」とは、山王寺に10日間ほど泊まり込み、自分が大学で学ぶ専門分野の目線から山王寺地区の「イイトコ」だけを見つけてまとめる、というもの。生物資源科

学部であればその地区の生き物のことを、看護学科であれば健康のことにテーマを絞って研究し、10日間で352の「イイトコ」があげられました。現在はまとめの段階に入っており、今後発表していく予定です。



初の試みである  
「第1回しまだいユーモア連歌大賞」を発表

今回のホームカミングデー初の取り組みとして「第1回しまだいユーモア連歌大賞」の発表を行いました。全国から寄せられた1,255句の中から、学長賞

2名と優秀賞10名の発表を行いました。審査委員長である下房桃菴氏(本学名誉教授)と小豆澤氏(本学職員)による愉快的な

トークを交えた講評とレベルの高い作品に、会場からは笑いと感嘆の声が上がっていました。

また、各学部に分かれての同窓会企画として、就職に関する講演会や懇親会等も行われ、同窓生にとっても学生にとっても大変有意義な、思い出に残る一日となりました。

松江フオーゲルパーク  
からペンギンも来場!

## 島根大生がつなぐ地域の縁 松江城山で初の「秋縁祭」

松江市殿町の松江城二の丸下の段で10月26、27日の両日、島根大学と地域をつなぐ祭り「秋縁祭」が開催されました。同祭は「大学生がつなぐ地域の縁」をコンセプトに、本学の武田翔太さん（生物資源科学部3年）を中心に初めて企画しました。特設ステージを設置し、出店や展示スペースのテントが並べられ、市民や学生にぎわいました。

初日は雨が心配される中、午

後3時に島大吹奏楽部の演奏で幕開け。焼きそばや山菜そば、キーマカレーなどの出店が並び、展示スペースでは島根県立大学短期大学部写真部や島大美術部、同陶芸部の作品が飾られました。また島大裏千家茶道研究会はお茶とお菓子を準備し、来場者をもてなしました。

2日目の幕開けは島大ダンスサークル「SCRUM」が迫力のあるダンスを披露。3チームが出



演し、キレのあるダンスが観客を魅了しました。ステージでは、島根県立大学の「よさこい橙蘭」が踊りを披露し、松江市出身のシンガーソ

ングライター山根万理奈さんのコンサートも行われました。よさこい橙蘭部長の藤原茉穂さん（島根県立大学3年）は「お客さんと一緒に踊り、かつ楽しんでもらえるよさこいを作ること」を目標にしています。そのためには、お客さんの近くに行ったり笑



顔で踊ったりすることを心がけています。お客さんが手拍子してくれ、一緒に踊ってくれてうれしかった」と話していました。今年が初開催だった「秋縁祭」でしたが、多くの一般市民も訪れ、会社員の女性からは「松江城の近所に住んでいるということもあり、たまたま訪れました。いろいろな大学の人が学園祭みたいなことを一緒にやっていて面白い。もう少し告知をしたらもっと多くの市民が来るのでは」と来年の開催を期待する声もありました。（学生プレス研究会／岡崎大輔・南口健一・福島達也・大門秀太郎・金崎智）





## 留学生・留学体験者大集合! 海を越えた島大生

### 外に出ないと分からない 日本の「当たり前」の素晴らしさ

海田 真帆さん  
(ネパール「トリバン大学」へ留学／生物資源科学部4年)



留学は学生のうちにやりたかったことの一つでした。留学先では社会情勢で学校が休みになったり停電が日常だったり、日本での当たり前が世界に出るとまた違う、ということをもっと教えられました。大変なことも多くありましたがとても良い経験になりました。いずれは何かしらの形で関わることができれば、と思います。

### 子どもの頃から大好きだった日本 将来もこの国で暮らしたい!

モヌリ・ベンジャミン・ステファンさん  
(フランス「リヨン第3大学」からの留学生)



子どもの頃に読んだ漫画の影響で日本が大好きに。母国で日本語だけでなく、日本の文化や歴史も勉強し、交換留学生として念願の日本に来ることができました。島根は自然の風景が美しく、人も親切です。将来もこの国で仕事を見つけて暮らしたいと思っています。

## 荒れた森林を元気にしよう!

私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。



みんなを  
まもろう!

山陰合同銀行

## 島根大学オリジナル芋焼酎 神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3150円(税込)



島根大学生協同組合  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240  
http://omise.seikyoku.jp/shimane

印刷テクノロジーで、  
世界を変える。

# TOPPAN

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp  
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F



生物資源科学部地域開発科学科3年  
武田翔太さん

秋縁祭実行委員長に  
インタビュー!

Q・秋縁祭をやるうと思っただきつけかけは?

大学1年生の時から地域と学生が協力したイベントをやりたいと思っていました。オープンキャンパスでは食と伝統芸を紹介する企画をやり、学園通り商店街の人と協力してチャレンジショップをやらせていただきました。その経験を生かして今回の秋縁祭をやるうと企画しました。

Q・実行委員構成は?

実行委員は12人、当日スタッフは32人です。

Q・秋縁祭で地域の人に伝えたかったことは?

大学生の中には地域と関わりたいと思っている学生がいることを知ってもらいたかったです。そして、学生たちが地域で何かしたいと思った時には協力してもらえたらうれしいです。

Q・第2回秋縁祭はやるのですか?

後輩に代表を引き継いで第2回も開催したいと思っています。今までは単発のイベントが多く、継続して行うイベントが少なかったです。継続して大学生と地域とが関わる場づくりをしたいので、秋縁祭は続けていきたいと思っています。

Q・武田翔太さんの今後の夢は?

地域と関わる島大生を増やしていきたいです。私が1年の時よりも地域と関わる学生が増えたが、まだまだ全体の学生数からすると少ないと思います。だから卒業するまでは、まだ地域と関わったことのない学生を誘って地域に出ていきたいと思っています。

(学生プレス研究会 / 池西宏顕)

松江キャンパス

【女子バレーボール部】



練習時間外は笑顔がたえない明るさもチームの魅力

チームをつくるのは  
私達一人ひとり  
団結力で上をめざす

今年、1部リーグ昇格を決め、来季に向けた練習に「段と熱が入っている同部」。

悲願達成の原動力となったのはチームワークの良さ。そして高校時代に全国大会を経験した部員が頼もしい牽引力となっています。

「監督不在のため、日々の練習や試合の組み立てや分析には部員一人ひとりの意見が欠かせません。学年の上下も関係なく、誰もが気兼ねなく意見を言い合えるような雰囲気づくりを心がけています」とキャプテンの森脇小百合さん(教育学部3年生)。

こうした話し合いの重視で部員間の理解や信頼感が深まり、チーム力も高まってきました。

目下の目標は1部リーグで通用するチームとなること。そのためには個々の技術の向上と高いモチベーションが不可欠と部員間で士気を高め合っています。

得意とする守りの固さとチームワークを武器に今後もしっかりある活躍が期待できそうです。



チームメイトの掛け声を背に、一心不乱にボールを追いかける。

出雲キャンパス

【シュールカメラート管弦楽団】



常任指揮者の長坂行博さんを囲んで

大切にしたい  
音楽をつくる楽しさと  
さまざまな人との出会い

楽団名は「学校」を意味するドイツ語の「シュール」と「学友」を意味する「カメラート」を組み合わせた造語。「仲間と音楽をつくる楽しさを共有したいんです」と副部長の与田千菜美さん(看護科2年生)。

今年 は 定 例 の 定 期 演 奏 会 や ア ン サ ン ブ ル 大 会、 病 院 で の コ ン サ ー ト、 地 域 の イ ベ ン ト 参 加 に 加 え、 初 ラ イ ブ を 決 行。 ク ラ シ ッ ク、 ジ ャ ズ、 ポ ッ プ ス と 多 彩 な 音 楽 で 聴 衆 を 魅 了 し ま し た。

OBやOGも頻りに練習参加し、部員たちの良い刺激に。「先輩方から音楽面に限らず礼儀作法や医療現場の事などいろいろ学べますし、対話能力を磨くチャンスにも。音楽を通じたつながりを大切にしていきたい

いですね」と部長の藪田愛さん(医学部3年生)。

平成26年度の定期演奏会は8月27日。演奏曲はブラームスの「交響曲第2番」他2曲が決定。この3曲と履食を共にする覚悟で練習に取り組んでいます。



定期演奏会の曲を選ぶ「試奏会」の様子。独特の緊張感が漂う。



島根大学は、島根スサノオマジックを応援しています！

# 神話第四章、注目の3選手に声援を！

昨シーズン西地区3位の好成績から一転して、いまだ西地区下位に甘んじてる我がスサノオマジック。昨年12月に新外国人選手・T・J・カミングス選手が加わり、何とかプレイオフ圏内(西地区6位以内)に浮上していきたい勝負の2月、3月!!ぜひ会場にてスサノオ選手にエールを送ってほしい!! 試合では右の3選手に注目!!

自らのドライブ、シュートなどの攻撃力が魅力! 動のポイントガード。

## #31 藪内幸樹



自身を起点とし、パスを回してチームを落ち着かせる静のポイントガード。

## #1 山本エドワード



192cmと日本人離れた体格で、外国人選手と堂々と渡り合うエースキラー。

## #10 波多野和也



### 2014年2月・3月のホームゲーム

試合日	開始時間	対戦チーム
2/1(土)	19:00	仙台89ERS
2/2(日)	13:00	
@松江市総合体育館		
3/1(土)	19:00	琉球ゴールデンキングス
3/2(日)	13:00	
@松江市総合体育館		
3/15(土)	19:00	高松ファイブアローズ
3/16(日)	13:00	
@カミアリーナ(出張)		

島根スサノオマジックの最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866(平日10時~18時)

## 島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。

(平成25年9月~平成25年11月にご寄附いただいた皆様)  
(五十音順・敬称略)

冠寄附

寄附名称及び寄附目的:  
櫻井インドネシア留学生支援奨学金  
医療法人 同仁会

個人からのご寄附

菅野 哲介 森山 洋平  
永田 まち子 多々納 道子

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ [http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund\\_recruit/](http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/) ※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

投稿のお願い

投稿先

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室  
TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019  
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp  
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

## PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「ブルーベリージャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。  
※応募締切/平成26年3月14日必着



## 編集後記

明けましておめでとうございます。

新年最初の号では、3月に広島で開催する「古代出雲文化フォーラムII」へ出演いただく島根出身の映画監督 錦織良成氏との学長対談や、学生が松江城を舞台に企画・開催したお祭り「秋縁祭」を特集し、地域に根ざした大学として躍進を目指す本学の方針や、地域に飛び出し自主的に活動する学生たちの活躍ぶりをご紹介させていただきました。

広報しまだいでは、今年も島根大学の魅力を地域の皆さまへお届けできるよう、編集スタッフ一同精進してまいります。同ページの「投稿のお願い」のコーナーでも紹介していますが、読者の皆さまからのご意見・感想を募集しています。掲載してほしい事柄など幅広くご意見をお聴かせいただき、より地域と本学を繋ぐ広報誌にしたいと考えています。

次号の広報しまだいは、4月発刊予定です。どうぞお楽しみに。

# 古代出雲文化 フォーラム II

- Forum on Ancient Izumo Culture II -

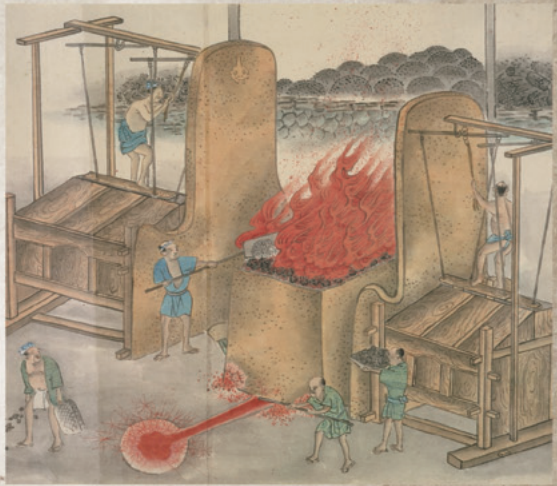
～古代出雲文化と現代の製鉄へつながる  
“たたら”へのいざない～



文化庁所蔵



青戸 魁 作「大国主命と白兔」加納美術館所蔵



「東京大学工学・情報理工学図書館工4号館図書室A」所蔵

平成26年

# 3月9日(日) 13:00～16:00

**会場** 広島国際会議場 国際会議ホール「ヒマワリ」  
〒730-0811 広島市中区中島町1番5号(平和記念公園内)



詳細は島根大学ホームページ  
左下のバナーからご覧ください。



【主催】島根大学 【共催】島根県、島根県教育委員会、松江市、出雲市、雲南市、安来市、奥出雲町、飯南町、邑南町  
【後援】文化庁、鉄の道文化圏推進協議会、株式会社山陰中央新報社、中国新聞社、山陰中央テレビ、BSS山陰放送、日本海テレビ、株式会社山陰合同銀行(順不同)

**学長挨拶** 古事記編纂から1300年、また今年の60年に一度の出雲大社の大遷宮で、古代出雲文化への関心は高まっています。古代出雲文化は弥生時代から古墳時代に花開き、日本文化のルーツでもあります。古事記には素戔嗚尊が八岐大蛇から取り出した「草薙の剣」が三種の神器として記載されており、荒神谷の358本の銅剣も含め金属文化の先進地であったことが窺われます。日本刀を作るのに欠かせない玉鋼の生産には「たたら製鉄」と言われる日本独特の製鉄法が必須であり、今でも島根県仁多郡奥出雲町の「靖国たたら跡」を復元した「日刀保たたら」で年に数回行う伝統のたたら製鉄のみで生産されています。古代出雲文化とはどんなものだったのでしょうか。たたら製鉄は現代にどのような影響を与えているのでしょうか。島根大学では古代出雲文化とたたら製鉄へのいざないとしてフォーラムを開催します。



小林 祥泰  
島根大学長